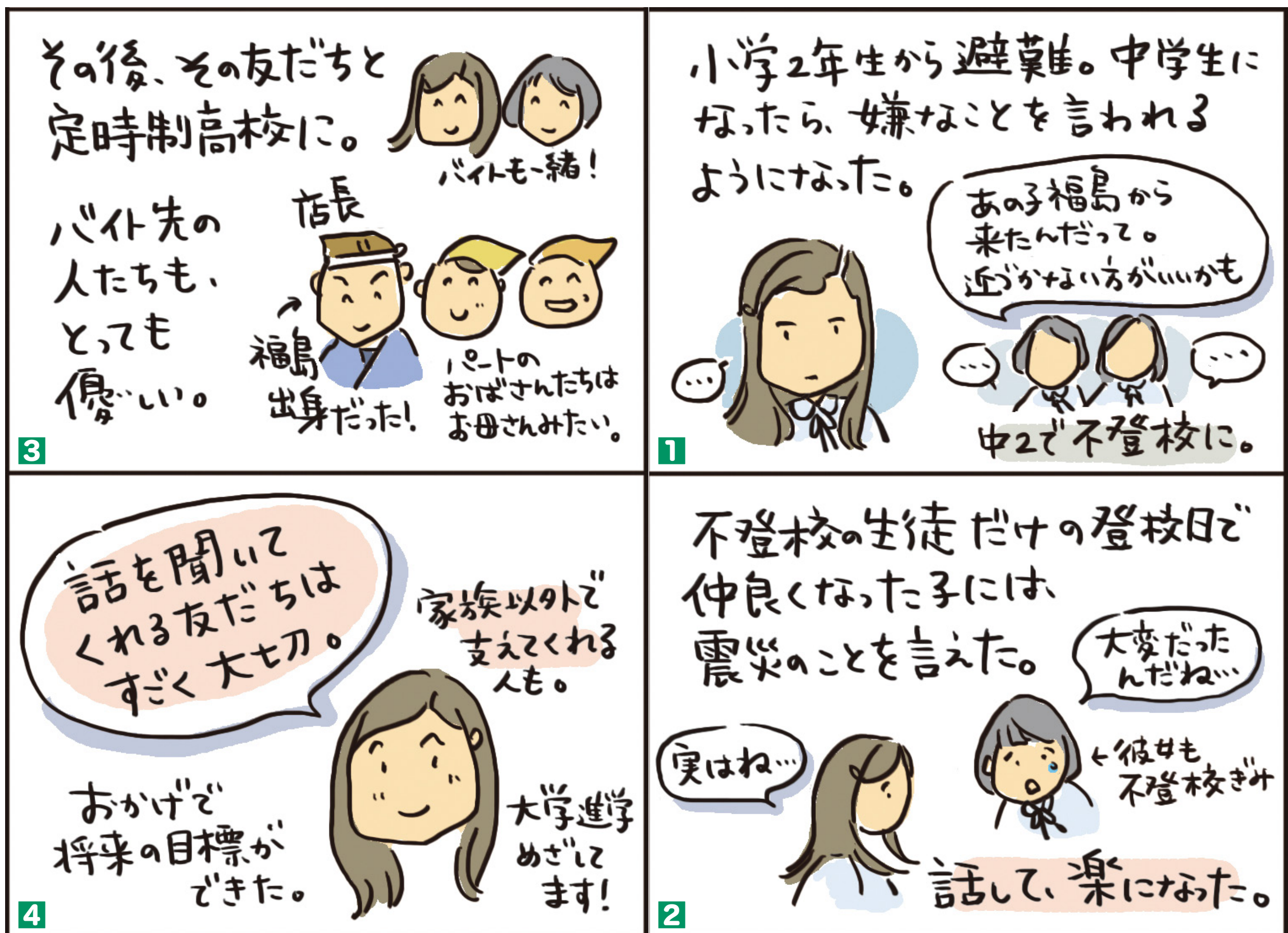


友だちって、大切!



避難先での新しい友だち

「新しく仲のいい友だちができてよかった」という人はたくさんいる一方で、「何でも話せる友だちはいない」、「転校を複数回し、ずっと一緒の友だちがいない」、中には「原発避難への不理解から嫌な思いや辛い思いをした」人も少なくありません。わかってくれる友だちとの出会いの大切さがわかります。

子ども・若者の声

- 当時、避難した子のいじめのニュースがあったけど、その時はその時だと思っていた。でも、実際にあつたら想像の5000倍辛かった。テレビなんかじゃ想像できない。現実はそんなもんじゃないと思った。
(福島県白河市:当時中学2年生)
- 最初は「わかってくれない」「話してうわって思われたらどうしよう」と、震災のことも話せなかったけど、この子ならいいかなと思って話せる友だちができ、話せて楽になった。
(福島県福島市:当時中学2~3年生)
- お母さんのつながりで、交流会にでたりすることで、同年代で避難した子なども含め、人に会うつながりが当初の頃からあった。その関係でもいろいろしてもらえたことが大きかった。
(福島県富岡町:当時中学生)

311県外避難者について考えよう